



平成 22年 3月期 第1四半期決算短信

平成 21年 8月4日

上場会社名 **小野薬品工業株式会社** 上場取引所 大阪・東京 各第一部
 コード番号 4528 (URL:<http://www.ono.co.jp/>)
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)相良 暁
 問合せ先責任者 (役職名)常務取締役広報室長 (氏名)森本 公也 TEL (06)6263-5670
 四半期報告書提出予定日 平成 21年 8月10日

1. 平成 22年 3月期第1四半期の連結業績(平成 21年 4月 1日～平成 21年 6月30日) (百万円未満切捨て)
 (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年 3月期第1四半期	36,448	2.2	15,826	27.2	16,999	24.0	11,174	28.1
21年 3月期第1四半期	35,659	—	12,439	—	13,713	—	8,721	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年 3月期第1四半期	102.76	—
21年 3月期第1四半期	77.61	—

※前期は「四半期財務諸表に関する会計基準」等に基づき財務諸表を作成した初年度であったため、前期の対前年同四半期増減率は記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年 3月期第1四半期	430,802	399,106	91.8	3,638.26
21年 3月期	421,280	390,041	91.8	3,555.54

(参考) 自己資本 22年 3月期第1四半期 395,613百万円 21年 3月期 386,621百万円

2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年 3月期	—	90.00	—	90.00	180.00
22年 3月期	—	—	—	—	—
22年 3月期(予想)	—	90.00	—	90.00	180.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 : 無

3. 平成 22年 3月期の連結業績予想(平成 21年 4月 1日～平成 22年 3月 31日)

(%表示は、通期は対前期、第2四半期連結累計期間は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期連結累計期間	66,500	0.8	20,500	△1.0	21,700	△3.5	13,500	△2.8	124.15
通期	137,900	1.0	40,500	△6.8	42,900	△8.2	27,000	13.6	248.31

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 : 有

4. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
〔(注) 詳細は、6ページ【定性的情報・財務諸表等】 4. その他をご覧ください。〕
- (3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)
- ① 会計基準等の改正に伴う変更 : 無
- ② ①以外の変更 : 無
- (4) 発行済株式数(普通株式)
- | | | | | |
|----------------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| ① 期末発行済株式数(自己株式を含む) | | | | |
| | 22年 3月期第1四半期 | 120,847,500株 | 21年 3月期 | 120,847,500株 |
| ② 期末自己株式数 | | | | |
| | 22年 3月期第1四半期 | 12,110,652株 | 21年 3月期 | 12,109,665株 |
| ③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) | | | | |
| | 22年 3月期第1四半期 | 108,737,378株 | 21年 3月期第1四半期 | 112,369,536株 |

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載しております業績予想は、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

なお、業績予想に関する事項は、5ページの【定性的情報・財務諸表等】 3. 連結業績予想に関する定性的情報をご参照ください。

〔定性的情報・財務諸表等〕

1. 連結経営成績に関する定性的情報

国内医薬品業界におきましては、後発品使用促進策の進展など医療費全体の抑制を目的とした諸施策が一層浸透するなか、国内外の企業間競争が一段と激化するなど、市場環境は厳しさを増しております。

このような状況のもと、当社は独創的な新薬開発を目指し、研究開発体制の一層の強化と主要製品を中心とした学術情報活動の充実を図るとともに、経営全般にわたり効率化に努めました結果、当第1四半期の業績は以下の様になりました。

売上高	364億4千8百万円	前年同期比 2.2%増
営業利益	158億2千6百万円	前年同期比27.2%増
経常利益	169億9千9百万円	前年同期比24.0%増
四半期純利益	111億7千4百万円	前年同期比28.1%増

・売上高 前年同期比7億円（2.2%）増の364億円

国内売上高は前年同期比3億円（1.0%）増の352億円でしたが、韓国における現地販売会社へのオノンカプセル及びオパルモン錠の輸出高が一時的に増加したことを主因として海外売上高が前年同期に比べ4億円（60.5%）増の約12億円となったことから、当第1四半期の売上高は前年同期比7億円（2.2%）増の364億円となりました。

主要製品の国内売上高ですが、末梢循環障害改善剤「オパルモン錠」は、腰部脊柱管狭窄症の適応領域で使用拡大が一層進み、前年同期比8億円（9.0%）増の107億円となりました。また、気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤「オノンカプセル」は、積極的な情報提供活動を広く展開したことにより、前年同期比3億円（5.5%）増の65億円となりました。さらに、一昨年6月に発売しました過活動膀胱治療剤「ステーブラ錠」も当該市場での育成が順調に進み10億円となりました。

なお、本年4月に新発売しました骨粗鬆症治療剤「リカルボン錠」の売上は2億円でした。

一方、気管支喘息（小児）治療剤「オノンドライシロップ」は、競合品との競争が厳しさを増すなか、前年同期比1億円（5.5%）減の21億円となりました。また、糖尿病性神経障害治療剤「キネダック錠」は、引き続き潜在市場の開拓活動に取り組みましたが、後発品の影響などもあり、前年同期比2億円（5.5%）減の41億円となりました。

・営業利益 前年同期比33億円（27.2%）増の158億円

売上高が前年同期比7億円（2.2%）増の364億円となり、売上原価が前年同期比3億円（5.9%）減の54億円、販売費及び一般管理費が前年同期比22億円（12.9%）減の151億円となりました結果、営業利益は前年同期比33億円（27.2%）増の158億円となりました。

なお、販売費及び一般管理費のうち、研究開発費につきましては、前年同期比14億円（17.6%）減の69億円となりました。これは、昨年、確実性やグローバルな競争力の観点から創薬プロジェクトを見直し、その数を従来の1/3に集約したことや、創薬プロジェクトの一部計画変更で当第1四半期における研究費用が前年同期に比べて約5億円減少したこと、さらには開発早期段階の一部プロジェクトの開始時期が当初予定より3～4カ月遅れる見通しとなったことに伴い、当第1四半期の開発費用が前年同期に比べて約5億円減少したことなどによります。

また、研究開発費を除く販売費及び一般管理費は、前年同期間に開催した「ステーブラ錠」の全国規模の学術講演研究会の関連費用計上の反動減や、経費一般のさらなる削減などの影響もあり、前年同期比7億円（8.6%）減の81億円となりました。

・経常利益 前年同期比32億円（24.0%）増の169億円

昨年秋以降の急速な景気悪化を受け、受取利息及び受取配当金が、前年同期に比べて1億円減少したことを主因に営業外収支が前年同期比1億円（7.9%）減の11億円となりましたが、営業利益の増加に伴い、経常利益は前年同期比32億円（24.0%）増の169億円となりました。

・ 四半期純利益 前年同期比24億円 (28.1%) 増の111億円

前年同期の特別損益は、特別利益として投資有価証券売却益4億円を計上しましたが、当第1四半期にはこれに相当する特別利益の計上がなかったため、利益が4億円減少しました。

以上の結果、四半期純利益は前年同期比24億円 (28.1%) 増の111億円となりました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

(資産、負債及び純資産の状況)

	当第1四半期末	前連結会計年度末	増減
総資産	4,308億2百万円	4,212億8千万円	95億2千2百万円
純資産	3,991億6百万円	3,900億4千1百万円	90億6千5百万円
自己資本比率	91.8%	91.8%	—
1株当たり純資産	3,638.26円	3,555.54円	82.72円

総資産は、前連結会計年度末に比べ95億円増加して、4,308億円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べて5億円増加し1,810億円となりました。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて90億円増加し2,497億円となりました。これは、繰延税金資産が27億円減少した一方で、投資有価証券が118億円増加したことなどによります。

負債は、前連結会計年度末に比べ4億円増加して、316億円となりました。

また、純資産は、前連結会計年度末に比べ90億円増加して3,991億円となりました。これは、剰余金の配当金の支払97億円がありました。一方で、第1四半期純利益の計上111億円、その他有価証券評価差額金の増加75億円があったことなどによります。

(連結キャッシュ・フローの状況)

	当第1四半期連結累計期間	前第1四半期連結累計期間	増減
現金及び現金同等物 期首残高	534億6千万円	474億3千3百万円	—
営業活動による キャッシュ・フロー	92億7千8百万円	△1億7千万円	94億4千9百万円
投資活動による キャッシュ・フロー	131億7千9百万円	333億7千5百万円	△201億9千6百万円
財務活動による キャッシュ・フロー	△87億9千8百万円	△269億1百万円	181億3百万円
換算差額	4千2百万円	△6千6百万円	1億8百万円
増減	137億1百万円	62億3千6百万円	—
現金及び現金同等物 四半期末残高	671億6千2百万円	536億6千9百万円	—

営業活動により獲得したキャッシュ・フローは、92億円の収入（前年同期比94億円収入の増加）となりました。主な内訳としては、税金等調整前四半期純利益169億円などのキャッシュの増加要因がある一方で、法人税等の支払い90億円などのキャッシュの減少要因がありました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、131億円の収入（前年同期比201億円収入の減少）となりました。主な内訳としては、有価証券及び投資有価証券の取得による支出があったものの、売却・償還等による収入があり、差し引き141億円の収入となったこと、有形固定資産の取得による支出8億円がありました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、87億円の支出（前年同期比181億円支出の減少）となりました。主な内訳としては、配当金の支払87億円がありました。

以上の結果、現金及び現金同等物の当第1四半期末残高は、前連結会計年度末に比べて137億円増加し、671億円となりました。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

平成21年5月13日の平成21年3月期決算発表時に公表しました、当第2四半期連結累計期間の業績予想における営業利益、経常利益及び四半期純利益について下記のとおり修正致します。

(1) 平成22年3月期 第2四半期連結累計期間業績予想の修正 (平成21年4月1日～平成21年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A) 平成21年5月13日発表 (前年同期比)	66,500 (0.8%)	18,200 (△12.1%)	19,400 (△13.7%)	12,100 (△12.8%)	111.28
今回修正予想 (B) (前年同期比)	66,500 (0.8%)	20,500 (△1.0%)	21,700 (△3.5%)	13,500 (△2.8%)	124.15
増減額 (B-A)	—	2,300	2,300	1,400	—
増減率	—	12.6%	11.9%	11.6%	—
前年同期実績	65,993	20,711	22,478	13,883	125.00

(2) 修正の理由

当第1四半期の売上高につきましては、期初の予想(第2四半期連結累計期間及び通期予想)に対してほぼ計画通りに進捗しておりますが、営業利益、経常利益及び四半期純利益につきましては、当該期間における研究開発費の計上額が上期予算(210億円)の33%程度の進捗に留まり、前年同期に比べ14億円(17.6%)減少の69億円となったことを主因として、大幅な増益となりました。

これは、当初、第1四半期に計上を予定していた研究開発費が上期予算額の40%弱であったこと、また、昨年、確実性やグローバルな競争力の観点から創薬プロジェクトを見直し、その数を従来の1/3に集約したことや、創薬プロジェクトの一部計画変更で当第1四半期における研究費用が前年同期に比べて約5億円減少したこと、さらには、開発早期段階の一部プロジェクトの開始時期が当初予定から3~4ヶ月遅れる見通しとなったことで、当第1四半期の開発費用が前年同期に比べて約5億円減少したことなどによります。

第2四半期においては、上期予算額の60%強の研究開発費(約130億円)の計上を予定しておりましたが、第1四半期における未消化分の影響及び当初は第2四半期に計上を予定していたものが一部第3四半期に移行することにより、当第2四半期連結累計期間における研究開発費は当初予定額である210億円を20億円程度下回る見込みです。

以上のことを主因とし、今回、第2四半期連結累計期間における利益予想(営業利益、経常利益、四半期純利益)をそれぞれ修正しております。

なお、下期においては、一部の開発プロジェクトで治験の開始を前倒しすることや、戦略的アライアンス(バイオベンチャーとの創薬提携、大学等研究機関との研究提携、新薬候補化合物の導入)により積極的に取り組むことなどで、一層スピーディーに研究開発活動を推進しますことから、通期の研究開発費はほぼ当初の予算額(約410億円)通りとなる見込みです。

従いまして、通期の連結業績予想(売上高、営業利益、経常利益、当期純利益)につきましては、前回通りと致します。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第1四半期連結累計期間を含む連結会計年度の税金等調整前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税金等調整前四半期純利益(累計期間)に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。なお、法人税等調整額は、「法人税等」に含めて表示しております。

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められるので、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はありません。

5. 【四半期連結財務諸表】
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成21年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	14,791	14,102
受取手形及び売掛金	41,530	39,480
有価証券	100,079	102,908
商品及び製品	5,262	5,439
仕掛品	1,022	1,194
原材料及び貯蔵品	3,579	3,424
その他	14,799	14,016
貸倒引当金	△8	△9
流動資産合計	181,057	180,556
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	63,789	63,748
減価償却累計額	△39,865	△39,413
建物及び構築物(純額)	23,923	24,334
機械装置及び運搬具	14,649	14,612
減価償却累計額	△12,863	△12,751
機械装置及び運搬具(純額)	1,786	1,861
土地	22,539	22,539
建設仮勘定	1,014	745
その他	10,206	10,183
減価償却累計額	△9,204	△9,124
その他(純額)	1,001	1,059
有形固定資産合計	50,265	50,540
無形固定資産		
その他	1,116	1,032
無形固定資産合計	1,116	1,032
投資その他の資産		
投資有価証券	190,223	178,333
その他	8,142	10,818
貸倒引当金	△1	△1
投資その他の資産合計	198,363	189,150
固定資産合計	249,745	240,723
資産合計	430,802	421,280

(単位：百万円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成21年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,406	3,423
短期借入金	1	1
未払法人税等	5,775	9,130
引当金	3,151	5,110
その他	13,070	7,794
流動負債合計	25,404	25,459
固定負債		
長期借入金	15	15
退職給付引当金	3,135	2,157
その他の引当金	81	82
その他	3,058	3,523
固定負債合計	6,291	5,779
負債合計	31,695	31,239
純資産の部		
株主資本		
資本金	17,358	17,358
資本剰余金	17,079	17,079
利益剰余金	423,952	422,565
自己株式	△63,429	△63,425
株主資本合計	394,961	393,578
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	9,729	2,170
土地再評価差額金	△8,922	△8,922
為替換算調整勘定	△155	△203
評価・換算差額等合計	651	△6,956
少数株主持分	3,493	3,419
純資産合計	399,106	390,041
負債純資産合計	430,802	421,280

(2) 【四半期連結損益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)
売上高	35,659	36,448
売上原価	5,829	5,483
売上総利益	29,830	30,965
販売費及び一般管理費		
研究開発費	8,432	6,948
その他	8,958	8,191
販売費及び一般管理費合計	17,390	15,139
営業利益	12,439	15,826
営業外収益		
受取利息	433	373
受取配当金	953	861
その他	36	33
営業外収益合計	1,424	1,268
営業外費用		
寄付金	65	83
その他	84	11
営業外費用合計	150	95
経常利益	13,713	16,999
特別利益		
投資有価証券売却益	442	—
特別利益合計	442	—
特別損失		
投資有価証券評価損	—	36
特別損失合計	—	36
税金等調整前四半期純利益	14,155	16,963
法人税等	5,341	5,714
少数株主利益	93	74
四半期純利益	8,721	11,174

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	14,155	16,963
減価償却費	723	685
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△1	△1
退職給付引当金の増減額(△は減少)	890	977
受取利息及び受取配当金	△1,387	△1,234
投資有価証券売却損益(△は益)	△442	—
売上債権の増減額(△は増加)	△4,346	△2,050
たな卸資産の増減額(△は増加)	382	194
仕入債務の増減額(△は減少)	273	91
その他	1,924	1,369
小計	12,172	16,995
利息及び配当金の受取額	1,426	1,294
法人税等の支払額	△13,769	△9,012
営業活動によるキャッシュ・フロー	△170	9,278
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	△6,974	△9,344
有価証券の売却及び償還による収入	51,898	31,850
有形固定資産の取得による支出	△354	△826
投資有価証券の取得による支出	△11,612	△8,379
投資有価証券の売却及び償還による収入	623	2
その他	△204	△122
投資活動によるキャッシュ・フロー	33,375	13,179
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	△15,600	△3
配当金の支払額	△11,296	△8,790
少数株主への配当金の支払額	△5	△4
財務活動によるキャッシュ・フロー	△26,901	△8,798
現金及び現金同等物に係る換算差額	△66	42
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	6,236	13,701
現金及び現金同等物の期首残高	47,433	53,460
現金及び現金同等物の四半期末残高	53,669	67,162

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

【事業の種類別セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年6月30日)

セグメントの区分が「医薬品事業」単一であるため、セグメント情報の記載を省略しております。

当第1四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)

セグメントの区分が「医薬品事業」単一であるため、セグメント情報の記載を省略しております。

【所在地別セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年6月30日)

全セグメントの売上高の合計に占める「本邦」の割合が90%を超えているため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

当第1四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)

全セグメントの売上高の合計に占める「本邦」の割合が90%を超えているため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

【海外売上高】

前第1四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年6月30日)

	欧州	アジア	その他の地域	計
I 海外売上高(百万円)	121	571	44	736
II 連結売上高(百万円)				35,659
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	0.4	1.6	0.1	2.1

(注) 1 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2 各区分に属する主な国又は地域

(1) 欧州……イタリア、スペイン

(2) アジア……韓国、台湾

(3) その他の地域……アメリカ、メキシコ

3 海外売上高は、当社の輸出高(特許権等使用料収入を含む)であります。

当第1四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)

	欧州	アジア	その他の地域	計
I 海外売上高(百万円)	195	957	29	1,182
II 連結売上高(百万円)				36,448
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	0.5	2.6	0.1	3.2

(注) 1 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2 各区分に属する主な国又は地域

(1) 欧州……イタリア、ドイツ、オランダ等

(2) アジア……韓国、台湾

(3) その他の地域……メキシコ等

3 海外売上高は、当社の輸出高(特許権等使用料収入を含む)であります。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

平成22年 3月期 第1四半期 決算補足資料

〈主な製品の売上高〉

(単位：億円)

	21年3月期	22年3月期		
	第1四半期 (実績)	第1四半期 (実績)	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率
オパルモン	98	107	+8	9.0%
オノン	62	65	+3	5.5%
キネダック	43	41	△2	△5.5%
フオイパン	33	32	△1	△3.2%
オノンドライシロップ	22	21	△1	△5.5%
エラスポール	13	13	△0	△5.2%
オノアクト	6	6	+0	6.3%
ステーブラ	3	10	+7	—
リカルボン	—	2	+2	—

※表中の実績値及び増減額については億円未満を切り捨てて表記しております。

(参考)

(単位：億円)

	20年3月期 (実績)	21年3月期 (実績)	22年3月期 (通期見込)
オパルモン	373	381	1桁台後半の伸び
オノン	271	244	5%程度の減少
キネダック	174	158	微減
フオイパン	134	121	5%程度の減少
オノンドライシロップ	110	89	1桁台後半の減少
エラスポール	54	50	5%程度の伸び
オノアクト	19	27	20%台半ばの伸び
ステーブラ	5	22	ほぼ倍増
リカルボン	—	—	10～15億円

平成21年8月4日現在

開発品の進捗状況

1. 国内開発品状況

<申請中開発品>

商品名/商品名候補 /開発コード	区分	予定効能/薬理作用	剤型	
イメンドカプセル (ONO-7436)/MK-0869	新有効成分	癌化学療法に伴う悪心・嘔吐 /NK 1拮抗作用	カプセル	導入 (メルク社)
グラクティブ錠 (ONO-5435)/MK-0431	新有効成分	2型糖尿病/D P P-IV阻害作用	錠	共同 (万有製薬)

<臨床試験中開発品>

商品名/商品名候補 /開発コード	区分	予定効能/薬理作用	フェーズ	剤型	
リバスタッチ※ ¹ (ONO-2540)/ENA713D	新有効成分	アルツハイマー型認知症/コリン エステラーゼ阻害作用	Ⅲ	経皮 吸収剤	共同 (ノバルティスファーマ)
ONO-7847※ ² /MK-0517	新有効成分	癌化学療法に伴う悪心・嘔吐 /NK 1拮抗作用	Ⅲ	注射	導入 (メルク社)
グラクティブ錠 (ONO-5435)/MK-0431	効能追加	2型糖尿病(α-グルコシダーゼ阻 害剤との併用療法)/D P P-IV 阻害作用 2型糖尿病(インスリン製剤との 併用療法)/D P P-IV阻害作用	Ⅲ	錠	共同 (万有製薬)
ONO-5920 /YM529	用法・用量変更 (月1回製剤)	骨粗鬆症/骨吸収抑制作用(ビス ホスフォネート系製剤)	Ⅲ	錠	共同 (アステラス製薬)
注射用オノアクト※ ³	効能追加	マルチスライスCTによる冠動脈 造影能の改善/β ₁ 遮断作用(ウル トラショートアクティング)	Ⅲ	注射	自社
イメンドカプセル※ ⁴ (ONO-7436)/MK-0869	小児での 効能追加	癌化学療法に伴う悪心・嘔吐 /NK 1拮抗作用	Ⅲ	カプセル	導入 (メルク社)
注射用エラスポール	効能追加	市中肺炎に伴う急性呼吸不全/好中 球エラスターゼ阻害作用	Ⅱ	注射	自社
ONO-7643 /RC-1291	新有効成分	癌性悪液質/グレリン様作用	I	錠	導入 (ヘルシン社)
ONO-5334	新有効成分	骨粗鬆症/カテプシンK阻害作用	I	錠	自社
ONO-8539	新有効成分	過活動膀胱/E P 1拮抗作用	I	錠	自社
ONO-4641	新有効成分	多発性硬化症/S 1 P受容体作動 作用	I	錠	自社
ONO-4538 /MDX-1106	新有効成分	癌/完全ヒト型抗PD-1抗体	I	注射	自社
ONO-3849	新有効成分	麻薬性鎮痛薬の使用に伴う難治性 便秘/μオピオイド受容体拮抗作用	I	注射	導入 (プロジェニクス社)

※1: アルツハイマー型認知症治療剤ONO-2540の商品名候補はリバスタッチになりました。

※2: 癌化学療法に伴う悪心・嘔吐の治療剤ONO-7847はフェーズⅢ試験を開始しました。
なお、本剤は申請中のイメンドカプセル(ONO-7436)を注射剤に改変したものです。

※3: 注射用オノアクトはマルチスライスCTによる冠動脈造影能の改善での効能追加を目的とした
フェーズⅢ試験を開始しました。

※4: 癌化学療法に伴う悪心・嘔吐の治療剤イメンドカプセル(ONO-7436)は小児での効能追加を
目的としたフェーズⅢ試験を開始しました。

2. 国外開発品状況
 <臨床試験中開発品>

商品名/商品名候補 /開発コード	区分	予定効能/薬理作用	フェーズ	剤型	
ONO-5334	新有効成分	骨粗鬆症/カテプシンK阻害作用	II	錠	自社
ONO-8539	新有効成分	過活動膀胱/EP1拮抗作用	II	錠	自社
ONO-4538 /MDX-1106	新有効成分	癌/完全ヒト型抗PD-1抗体	I	注射	共同 (メダレックス社)
ONO-4538 /MDX-1106	新有効成分	C型肝炎/完全ヒト型抗PD-1抗体	I	注射	共同 (メダレックス社)
ONO-4641	新有効成分	多発性硬化症/S1P受容体作動作用	I	錠	自社
ONO-7746※5	新有効成分	血小板減少症/トロンボポエチン受容体作動作用	I	カプセル	導入 (日産化学)

※5：血小板減少症治療剤ONO-7746は米国でフェーズI試験を開始しました。